第4回奈良 ESD 連続セミナー

大西 浩明

◇日時：2025年7月22日（火）19時～21時

◇方法：Zoomによるオンライン形式

◇参加者：36名

◇内容：単元構想案の相互検討①

【ルーム1】 ファシリテーター：圓山裕史（奈良市立伏見小学校）

1)谷口晋吾先生(草津市立老上中学校)

中学校1年 総合的な学習の時間 「安心してすごせる社会をつくるために～障害者理解を中心に～」

「あなたが考える『安心』とは？」

障害について学ぶ（体験を中心に） 今後自分もそうなるかもしれない

安心して暮らすために自分にできることを考える

ユニバーサルデザインを考えよう 自分にもできるユニバーサルデザインについて

- ・障害者理解については、小学校でもやっていると思うので、これまでの学びについて情報をもらっておくといいのでは。
- ・ユニバーサルデザインについて考えたのなら、学校内や学区内ではどうなのかを調べさせたい。
- ・障害があるだけでなく、「だれにとっても暮らしやすい」という視点がある方がいいと思う。
- ・「調べよう」「考えよう」ではなく、疑問形にすることで子どもの視点が焦点化されるのでは。
- ・ユニバーサルデザインを考えるなら、ジェンダーの問題も入ってくるのでは。

2)辻大吾先生(草津市立老上中学校) 中学校1年 総合的な学習の時間

「老上中学区防災プロジェクト ～みんなで創る安全・安心なまち OIKAMI～」

これまでに起こった震災について振り返る（阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震など）

滋賀県は災害による被害は少ないが、南海トラフ巨大地震は必ず来る

「老上学区には、どんな防災の課題があるのだろうか？」

防災マップのチェック、地域の人からの聞き取り、防災のプロから学ぶ・・・「地域を知る」

防災について学んでいる大学生との交流（ローブワーク、防災グッズ作りなど）

→ 学んだことを行動につなげる（オリジナルのハザードマップ作成、発信など）

- ・ため池が崩れたらハザードマップとは大きく違う被害が起こる可能性がある
- ・自分たちの生活や行動で改善しなければいけないことを出し合うことが行動化の柱になれば。
- ・ここでの行動化は発信も大事だが、まずは自分たちの課題に気付いて変えていくことではないか。
- ・「みんなで支え合う」ためにも、「まず自分の命を守る」という視点が前面に出てくる方がいい。

3)山本寛之先生(草津市教育委員会)

中学校1年 総合的な学習の時間 「つなげよう！ 3(スリー)Lのボタン」(松原中学校で実践)

琵琶湖のオーパルでの活動から・・・水が緑色 水草がたくさん においがきつい

琵琶湖の環境はよくなっている？ 悪くなっている？

水草を定期的に刈り取っている 堆肥として活用

「琵琶湖の水草を活用して、畑の野菜はどう変わるのか？」

琵琶湖環境保全財団の方から話を聞く

いつから水草を肥料活用しているのか どんないいことがあるのか

「松原ファーム」で春大根栽培に活用してみよう

水草堆肥を撒いたところと、撒いていないところの生育のちがいを観察

- ・琵琶湖の水がきれいになると水草は増える（ジレンマ）
- ・外来種の水草が多くなっていて、堆肥に向かない（昔は乾燥させなくてもよかった）
- ・3L (LIFE) とは、3つの命（琵琶湖の命・植物の命・私たちの命）
- ・化学肥料よりも自然のものでできるよさは実感できる。
- ・時間をかけてまで堆肥にしようとする価値について考えることができる。

【ルーム2】 ファシリテーター：河野晋也（奈良教育大学）

1) 竹田光陽先生(生駒市立生駒東小学校)

小学校5年 総合的な学習の時間「命の尊さを考え、人と生き物が生きる道を見つけよう」

1学期のうちに、琵琶湖博物館へ見学に行き、いろいろな生き物が連鎖的に関わり合って生きていること、いろいろな生き物守っていかなければならないことを学んだ。学校に目を向けると、夏の暑さの中で、学校の池が干上がってしまっていることを気にする児童が多くいる。ここに生き物を呼び戻すためにどうすればいいのかを考えていく。

害虫の駆除についてはせざるを得ないところもあるし外来種の問題もあり複雑。こちら（人間）の見えているところだけで判断することの難しさがある。授業をすすめる上では、共存を目指すために取り組んでおられる人がいると思うので、そういう人たちに出合わせるのもよいのではないか。また生駒市内の小学校同士で、取組を紹介してほしいという要望もあった。

2) 西田有壺先生(生駒市立俵口小学校)

小学校6年 総合的な学習の時間「飛行塔の96年」

生駒山上遊園地にある飛行塔を平和学習の題材にした学習。広島では、原爆ドームを風化させないために、現地の子どもたちが取り組んでいることもある。生駒市の飛行塔にも、そういう負の遺産としての性質も感じられる。平和の象徴のような遊園地の遊具に、戦争に利用されたものがあるというのは、とてもよい教材になりうる。当時のことを、当時の人の思いを知れるような人に会うこともよいのではないか。

3) 中川純一先生(生駒市立俵口小学校)

小学校5年 総合的な学習の時間「いいな～このまち、いこま」

赤い羽根募金を題材として、誰かのために何かをすることの意味を考えさせようとする単元。赤いはね募金をした後、そのお金がどこに行くのかを探究していく過程で、どんな人が必要としているのか、どんな思いで募金をしているのか、などを考えていく。その上で、「良い町」とはどのようなものなのかを考えていく。何も知らないまま募金をしていることも多いので、赤い羽根募金に限らず、募金という行為にはどのような願いや意味があるのかを考えさせることに意味があると思う。子どもたちが募金するとしても、自分で稼いだお金ではないので、どのように使われているのかなどを調べる活動を通して、募金活動の根っこの部分にどのような人の思いがあるのかを考えさせたい。

【ルーム3】 ファシリテーター：中村友弥（奈良市立朱雀小学校）

1)原田龍ノ介先生(奈良市立朱雀小学校)

小学校5年 総合的な学習の時間「3000年もつづいている日本のお米を守りたい」

これからの日本のお米はどうなるの？ 続くの？

働き手の問題、気候変動など、日本の主食が変わる？

実際に米づくりをしている方に聞く

消費者として日本の米について考えてほしい これからも日本のお米が続くために・・・

当たり前は当たり前ではないことに気付いてほしい

「日本のお米がこだわってきたところはどこだろう？」

- ・教材との出会いにインパクトがほしい
- ・日本のお米のよさは？ 米農家がなぜ4500円程度のお米を作るのか？
- ・日本の米のよさは？（パンやパスタでいいじゃんとならないように）
生産者の視点と消費者の視点

2)三笠日向先生(大阪市立歌島小学校) 道徳・特活「ももたろう」

平和をテーマに

「ももたろう」の原作には、鬼が悪いことをした様子は書かれていない

鬼に対する偏見、鬼へのイメージ、鬼は怖い（節分のイメージ）

村人からすればももたろうはヒーロー 英雄

何もしていない鬼からすれば・・・「ももたろうはどうするべきだった？」

→「ももたろう」を作り直す

道徳での「なかまづくり」がいいのでは。 国語？ 道徳？ 学活？

3)菊池甲餘子先生(姫路市立水上小学校)

自立活動「かけがえのないいのちと共に生きよう」

姫路でマタハラを・・・そのような人たちとどのように過ごしていくか

自分の出産、育児を含めて考えたこと

対象にしている4名の児童について

- ・Aさん・・・父からの虐待傾向 「水商売してやるわ」と発言してしまう児童
- ・Bさん・・・性的な接触、発言
- ・Cさん・・・不登校 体が大きい
- ・Dさん・・・知的な遅れ 生理が始まるかも

性教育として、助産師のような立場で授業「お母さんのおなかの中を知ろう」

自分はどのように生まれてきたのか？ 生まれたときの様子を調べる

「5年生で亡くなった子どものメッセージ」 命の大切さについて

養護教諭との連携 自身の等身大の絵を描く

命を大切にできる感性が大事 実際に性的な言動が変わった児童もいた

保護者の思いについて、母の気持ちを3場面（おなかの中、生まれたとき、現在）で。

【ルーム4】 ファシリテーター：島俊彦（福岡市立七隈小学校）

1)村上雄太先生(奈良市立平城小学校)

小学校第4年 総合的な学習の時間「広めよう！地域の文化・日本の文化」

(1学期：実践済み)

- ・文化勲章を受賞した日本画家、上村淳之（昨年逝去した地域住民）が平城小学校に寄贈した絵から学習が始まる。
- ・松伯美術館を訪れ、上村淳之の絵に対する子どもの興味が高まっている。
- ・日本画や上村淳之について調べたことを、Canvaを使ってスライドでまとめた。

(2学期)

- ・日本画以外の文化として、奈良墨を取り上げる。(Gtを招いて、体験活動を行いたい)
- ・学生時代に日本画を専攻した先生が学年団にいたので、奈良墨を使って日本画を書く活動も取り入れたい。

(3学期)

- ・平城万博を開き、学んだこと（地域や日本の文化）を保護者や地域住民に発信したい。

(悩み①体験活動とESDの関係性)

- ・教材と出会わせたり没頭させたりする上で体験活動は効果的。しかし、求める子どもの具体的な姿や学習のねらいが明確でなければ、活動あって学び無しとなる。

(学習の流れ)

- ・ゴール像が明らかになれば、自ずと学習の流れが定まってくる。児童の実態と、児童の思考の流れを教師が想定できれば、学習計画がより具体的になるはず。

2)佐藤亨樹先生(山形市立大曾根小学校) 小学校5年 社会科「米づくり」

(みつめる)

- ・備蓄米を取り扱う（ニュースなどから入る）。「なぜ備蓄米が必要？」

(しらべる)

- ・備蓄米について調べる（備蓄米って何？なぜ、備蓄米？）
- ・Gt：田んぼの先生から、米づくりの課題について教えてもらう。
- ・総合で農業の学習（ミニ田んぼづくり）を経験している。

(ふかめる)

- ・Gt：菅野さん（渋谷でトラクターデモを行った、山形の米農家さん）
- ・備蓄米の意義について話し合う。「備蓄米があれば、これからの自分たちの食糧は安心？」

(ひろげる)

- ・「自分たちの食を守るために、私たちがしなければならないことは？」
- ・Gt：東北農政局の職員。

(学習の流れ)

- ・ねらいは消費者としての変容（エシカル消費）。社会科の学習だけでは行動化が難しいので、行動化にかける時間は総合を使って捻出する。